福井県衛生環境研究センター研究員活動報告　概要

発表演題名	市販鶏肉から分離されたサルモネラの血清型および薬剤感受性
学会名	平成１９年度地研東海北陸支部微生物部会
発表者名	山崎　史子（保健衛生部）
開催場所	名古屋市　アイリス愛知
開催日時	平成２０年３月６日（木）
発表内容	2007 年 4 月から 10 月に福井市内で購入した市販鶏肉 64 検体（国内産 48 検体および外国産 16 検体）を検査したところ、国内産 38 検体および外国産 3 検体の計 41 検体（64%）からサルモネラが検出された。国内産はすべてチルド製品で、外国産は冷凍あるいは解凍した製品であり、今回の調査では国内産チルド製品のサルモネラ汚染が高率であることが示唆された。検出された血清型は *Salmonella* Infantis（*S.* I）が半数以上を占め、他の報告と同様に優位な血清型であることが確認された。分離株のうち 65 株について 12 種類の薬剤を用いた薬剤感受性試験を実施したところいずれかの薬剤に耐性を示した株は 62 株（95.4%）で 4 剤以上の薬剤に耐性を示した株は 41 株（63.1%）でそのうち 27 株は *S.* I であった。薬剤別の耐性率は TC、SM、Su で 80%前後と高く、これらは抗生物質動物用医薬品の中で（2001 年）、鶏における販売量が他の家畜に比べ多い薬剤であった。